

# 巻 頭 言

公立大学協会図書館協議会は平成19年で52年目を迎えますが、公立大学をめぐる財政的環境は、設置者の財政的状況から抑制の方向になっており、一層厳しさを増しております。その一方で全体として公立大学法人化へと進んでいく方向性も窺えます。

しかし、このような環境のもとでも公立大学図書館は、大学の学術情報を預かる中核施設として、多様な情報の高度電子化への対応、情報サービス機能の高度化、知的財産・情報の社会への解放等、大学図書館の高度な情報機能と社会的役割への期待がかつてなく大きくなって来ており、図書館職員の専門性を発揮した大学の教育・研究・社会的貢献等における積極的な役割が期待されております。その意味で今日では国立私立の大学図書館と成らんで公立大学図書館の機能は質的転換期を迎えているといっても過言でないでしょう。

こうした社会的状況のもとで、公立大学協会図書館協議会としては、昨年度に引き続いて相互協力委員会において懸案である電子ジャーナル・コンソーシアム構築に取り組み、加盟各館の拡大と出版社・学協会との契約交渉を引き続きおこなっております。さらに国公立大学図書館協力委員会に参加し、著作権やコンソーシアム・研修会・シンポジウム等、国公立の壁を越えた大学間の連携・協力のもと協議を続け、大学図書館の学術的・社会的機能向上のための努力を着実に積み重ねております。

以上のように公立大学図書館にとって共通の課題に公立大学協会図書館協議会を中心として一致協力して解決に当たる一方で、各大学における個別の課題についても大学間相互に情報提供・交換を行って、より一層各大学図書館の充実を図っていききたいと思います。

最後に、各大学図書館の館長・職員をはじめ、図書館運営に当たっておられる方々の日頃のご努力に対して敬意を表するとともに、大学図書館として独自の活動を積み重ねて大学内はもとより、地域社会に対し一層貢献して頂くようお願い申し上げます。

同時にこの一年間の協議会運営へのご理解とご協力に対し深く感謝申し上げます。

平成19年3月

公立大学協会図書館協議会会長館

高崎経済大学附属図書館長

和 泉 清 司